

エスキーテニス

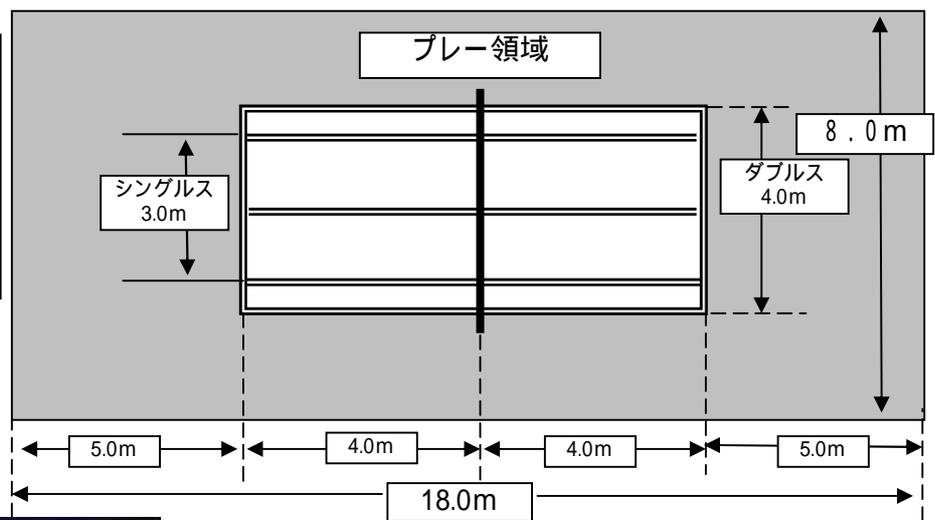
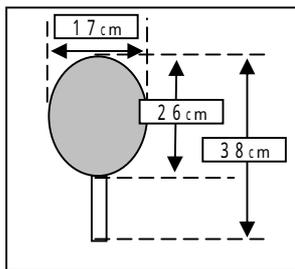
特徴

1945年、原爆が投下された廃墟の中で、ひろしまの子供たちが焼け残った板きれを持って、手作りのボールを打ち合って遊んだのがルーツとされています。
羽のついたゴルフボール大のスポンジボールを木製ラケットで打ち合う、テニス型のゲームです。
羽がボールのスピードを抑えるため、小さなコートで手軽にできます。
このスポーツは、球技では珍しい、ユニークな「段級位制度」を設けており、毎年100人程度がこの段級位に挑戦しています。

コートの大きさや使用する道具

ネット: 4.4m × 0.55m

ラケット



主なルール・競技規則など

試合の種類は、シングルス(シングルスコート)またはダブルス(ダブルスコート)とする。

試合は、3セットマッチとし、先に2セット先取した方が勝利となる。

1セットは、11点(7点の場合もある。)とする。ただし、10点以上(7点の場合は6点以上)で同点となった場合は、その後連続して得点した方が、そのセットの勝者となる。

サービスは、サービス所定位置から相手コートのサービスコート(対角線上のエリア)に打ち込む。(最初のサービスは、ネットに向かって右側の所定位置から行い、サービスが交代するまで左右交互に行う。)

サービスを行う場合は、広げた手のひらの上にボールを乗せ、肩の高さよりも低い位置から、サービス所定位置内に自然に落下させ、ワンバウンドしたボールがツーバウンドになる前に、ラケットで打ち、相手コートへ入れる。

サービスのレシーブは、自陣のコートにワンバウンドした後、ツーバウンドする前に打ち返さなければならない。ラリーについては、自陣に入ったボールがノーバウンドする前からツーバウンドする前までに打ち返さなければならない。

ダブルスの場合、サーブレシーブを行う者は決められているが、その後のラリーについては2人のうち、どちらのプレーヤーが打球を行ってもよい。ただし、二人同時に打球することはできない。

詳しい内容を知りたい場合

日本エスキーテニス連盟 ホームページ: <http://www.hbs.ne.jp/home/miyo-344/>